2023年4月16日

「はじめてのキリスト教」説教要約

「わたしはある」という方が

（出エジプト3・13～15）

一、「神」をめぐって

旧約聖書の「エローヒーム」は、複数形のことばでありまして、「神々」とも訳されます。それを教会の人たちが聞きますと、「え？神はおひとりなのに、なぜ複数形なのか」と疑問に思うわけです。その説明が、いのちのことば社『新聖書辞典』に、次のように書かれています。**〈エローヒームは、威光、威厳、充満を表現する複数形であり、おそらく神の力の充満があらゆる方向に広がるものであるところから、エローヒームと呼ばれたのであろう。〉**と。なるほど、と思います。神は唯一ですが、その存在をあらわすことばとして、複数形を用いたのも、神から賜った知恵と言うべきでありましょう。

二、神の選びの器モーセ

かつてヘブル人たちは、エジプトに四百年間寄留していました。そして奴隷として扱われ、その過酷な労働のゆえに神に祈り求めました。そういう状況下で、ヘブル人のモーセが生まれました。本来なら、ヘブル人で男児が生まれたら殺されなければなりませんでしたが、モーセはファラオの娘に拾われて、王子として育てられました。モーセは自分がヘブル人であることを知っていました。また、同胞のヘブル人が奴隷として苦しめられていることも知っていました。大人になったモーセは、自分の力で同胞であるヘブル人を奴隷状態から解放しようとしました。しかし見事に失敗し、ファラオから追われる身となりました。その時、モーセは四十歳だったようです。それから四十年が経過しました。出エジプト記には、モーセが立ち上がったのが四十歳の時であったことも、それからミディアンの祭司イテロの下で羊を飼っていた期間が四十年であったことも書かれていません。後にユダヤ人の伝承で、四十歳の時に立ち上がり、それから四十年が経過して、再び立ち上がったということになったようです。神は、モーセに言われました。**「今、行け。わたしは、あなたをファラオのもとに遣わす。わたしの民、イスラエルの子らをエジプトから導き出せ」**と（出エ3・10）、また**「わたしが、あなたとともにいる。これが、あなたのためのしるしである。このわたしがあなたを遣わすのだ」**と（同3・12）。ところが問題がありました。それが13節です。**〈モーセは神に言った。「今、私がイスラエルの子らのところに行き、『あなたがたの父祖の神が、あなたがたのもとに私を遣わされた』と言えば、彼らは『その名は何か』と私に聞くでしょう。私は彼らに何と答えればよいのでしょうか。」〉**です。モーセが心配したのはもっともです。イスラエルはエジプトに四百年間寄留しました。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神という唯一神を信じるイスラエルではありましたが、四百年間エジプトに寄留したのです。エジプトは多神教の国でした。人間の数よりも神々の数の方が多い国でした。そういう中に暮らしていたイスラエルでしたから、「神」と聞いても、どの「神」なのかと思うのは当然のことです。イスラエルの子らが納得するためには、その「神」が自分たちの父祖の神であることが必要でした。すなわち、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神であることははっきり分かることでした。どのようにして、それを証明したら良いのでしょうか。14節に語られています。**〈神はモーセに仰せられた。「わたしは『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエルの子らに、こう言わなければならない。『わたしはある』という方が私をあなたがたのところに遣わされた、と。」〉**と。この、神が御自身の名として言われた**「わたしはある」**が、**【主】**（ヤハウェ）という名の説明であると考えられています。15節をご覧ください。**〈神はさらにモーセに仰せられた。「イスラエルの子らに、こう言え。『あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、【主】が、あなたがたのところに私を遣わされた』と。これが永遠にわたしの名である。これが代々にわたり、わたしの呼び名である。〉**とあります。すなわち神は、「あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神は、【主】（ヤハウェ）であり、その意味は『わたしはある』である」とおっしゃったのです。

三、「わたしはある」をめぐって

「わたしはある」は、どういう意味なのでしょうか。口語訳は「存在する者」として、神が御自身を啓示されたと訳しているようです。しかも、その存在は永遠です。ヘブル語に、過去・現在・未来の時制はないので。新共同訳とフランシスコ会訳は、新改訳と似ています。聖書協会共同訳は口語訳と同じように、「存在する者」として神が御自身を啓示されたと訳しているようです。ということは、受け止め方もある程度の幅を持たせて受け止めるのが適当なようです。『ATD旧約聖書註解2出エジプト記』に、こんな解説があります。**〈「わたしはある」とは、「存在する」ではなく、「生きて働く者としてある」ということを表現している。（略）「生きて働く者としてある」というのは、どこかで演じられているということではなく、人間の世界、何よりもイスラエルの歴史において現れるのである。〉**と。